



日本医師アマチュア無線連盟(JMARS) 総会(越後湯沢)の開催報告

新潟大学大学院医歯保健学研究科

地域医療確保・地域医療課題解決支援講座 地域医療分野

井 口 清 太 郎

令和8年5月23日から24日にかけて、湯沢町の湯沢東映ホテルにおいて、第49回日本医師アマチュア無線連盟（以下、JMARSとします）総会・懇親会が開催されました。本総会が新潟県で開催されるのは初めてであり、全国から会員が集う記念すべき会合となりましたのでご報告いたします。JMARSは半世紀近い歴史を有する医師によるアマチュア無線団体であり、現在全国に68名の会員を擁しています。新潟県内にも私をはじめ3名の医師が会員となっています（姉崎静記先生、山本賢先生）。今回の総会には、北は岩手県から南は大阪府まで全国各地から会員が集まり、日本歯科医師アマチュア無線連盟の会員や県内からのオブザーバー参加者（内山政二先生、川合千尋先生）を含め20名が参加しました。参加者は皆、初夏の雰囲気漂う魚沼・湯沢を満喫していただけたものと思います。

総会では、これまでの活動報告や今後の事業計画について協議が行われました。近年ではアマチュア無線の集まりでありながらもインターネットを活用した会議や情報交換も積極的に取り入れられており、従来からの無線による交流と融合した新しい活動形態が定着しつつあることが報告されました。また来年、大阪府において開催予定の日本医学会総会に関連した記念事業についても意見交換が行われました。

総会後には、三重県伊勢市の堂本先生から「巨大災害発生超急性期における病院間災害無線ネットワーク構築について」と題した記念講演が行われました。講演では、三重県伊勢市において大規模災害発生時に通常の通信手段が途絶した場合に

備えた病院間や行政との連絡体制を確保するための無線ネットワーク構築の実践例が紹介されました。将来想定される南海トラフ巨大地震に対する危機意識の高さが窺えました。近年、自然災害が頻発する中で、医療機関における通信確保の重要性はますます高まっており、参加者にとって大変示唆に富む内容でした。

懇親会では、全国各地で活躍する医師同士が地域医療や医療制度の動向、災害医療への取り組み、また日頃の無線活動などについて活発に情報交換を行うことができました。医療を取り巻く環境が大きく変化する中、専門分野や地域を超えた交流の場としても有意義な機会となりました。特に歯科医師の先生方とも共通の趣味を通じて交流を深めることができたことは、大変有意義でした。

翌日はエクスカッションとして八海山ロープウェイおよび「魚沼の里」を訪問しました。八海山ロープウェイでは貸し切り状態のゴンドラに揺られ、標高1,147m地点にある山頂駅まで上りました。山頂駅からは日本海や佐渡島を望むことができ、参加者は景観を楽しむとともに無線交信も体験できました。下山後に訪れた「魚沼の里」では醸造会社が経営する施設ならではの美味しいお酒や、麴食品を堪能することができ、日本酒を購入される参加者も多くいました。参加者は新緑の魚沼地域の自然や文化に触れながら親睦を深め、新潟県の魅力を全国の参加者に紹介する機会となりました。

今回の総会は、新潟県で初めて開催されたJMARS総会であり、大きな意義を持つ会合となりました。アマチュア無線は趣味活動として親し



全国から越後湯沢に集った JMARS 会員と関係者

まれている一方で、災害時には通信手段の一つとして活用できる可能性を有しています。実際に東日本大震災などでは携帯電話などが使えなくなった際に役立ったとの報告もあります¹⁾。能登半島地震を契機として、災害時における通信確保の重要性が改めて認識されています。そしてこれらは、在宅医療や地域包括ケアを支える上でも重要な課題といえます。全国の医師が共通の関心のもとに集い、交流と学びを深めた本総会は、医療人とし

てのネットワークづくりと地域社会への貢献を考える貴重な機会となりました。今後もこうした交流を通じて、医療と地域社会に貢献できる活動を継続していきたいと考えています。

文献

- 1) 井口清太郎：新潟県医師アマチュア無線クラブ 令和6年新年会の報告. 新潟県医師会報 2024 ; 888 : 30-31.